

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2373900345		
法人名	有限会社ジェイ・スパック		
事業所名	グループホーム「白寿の里」 1F		
所在地	愛知県稲沢市正明寺一丁目2-15		
自己評価作成日	平成26年12月30日	評価結果市町村受理日	平成27年 6月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設内の行事だけでなく、町内会や町内の行事(はだか祭り、稲沢中学校職場体験、敬老会など)に積極的に参加している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2373900345-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人代表は、「自分が老後に入りたくるようなホームを作りたい」との思いでホームを立ち上げており、現在もホームの理念である「個人個人にあったアットホームな介護支援」を目指して事業運営にあつている。職員からは、「自分の両親を、胸を張って入れられる施設」との声を聞くことができた。管理者及び職員同士が和気あいあいとし、職員間のチームワークが構築されている。幅広い介護度の利用者が入居しているが、職員は笑顔で一人ひとりに寄り添った支援を心がけており、モットーである「職員の笑顔は利用者の笑顔」に意欲的に取り組んでいる。近くの国府宮神社で行なわれる「裸祭り」の際は、ホームが休憩所となり、ホーム内で利用者と裸男たちが触れ合い共に祭りを楽しみ、地域との交流に努めている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市中区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成27年 3月16日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	定期的に行う職員会議、カンファレンスを通し、管理者、職員間の話し合いで共有が出来ていると思う。	玄関にホーム理念を掲示し、運営推進会議議事録の冒頭にも記載され、職員・家族・地域の方々にも周知されている。会議においても、管理者・職員間の話し合いの場で共有に努めている。	家族・職員共に理念の周知は徹底されているので、理念を展開した目標(年次又は月次)を定め、理念の実現に向けてまい進されることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年行われているはだか祭り、地区での敬老式等の出席を楽しみに思い交流がうまく出来ていると思う。	開設時から町内会に参加し、地域の方々と同じ役割を受けて組長を務めている。住所地在り複数学区との境界線地域のため、学区行事に参加する機会は少ないが、地域の中学の文化祭に毎回招待されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年中学生の職場体験実習を受け入れ、知って頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の開催で意見・情報の交換を行いサービスの向上に活かしている。	運営推進会議は市役所、地域包括支援センター、区長、民生委員、家族代表、ホーム関係者が参加し、年間6回開催している。事業所からの報告と共に質問、意見、要望を受け、積極的な意見交換の場となっている。	民生委員・利用者・知見者の参加により、会議内容の充実を図り、会議で出された意見をホームの課題として受け止め、継続検討されることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に稲沢市役所高齢介護課の担当の方に毎回出席をお願いしている。	運営推進会議には、市の高齢介護課の職員が参加しており、ホームの実情は適時に伝わっている。生活保護受給者の利用があり、市の福祉課と連携を図り、担当者とは何時でも相談できる体制を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者も出席する職員会議で何度も繰り返し学びながら身体拘束をしないケアをしている。	管理者・職員共に身体拘束による弊害を熟知している。施錠についても開放を基本としているが、新規利用者の状況により、現在は玄関を除き施錠を行なっている。利用者の状況は随時職員会議で検討を行なっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議、カンファレンスなどの話し合いで見過ごしてしまわない様注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する勉強会は行えていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には管理者が重要事項説明書を読みながら説明し、理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族からの意見や苦情、要望は常に聞かせて頂く様心がけている。	年1回の家族会、運営推進会議には家族からの意見や要望を聴き、運営に反映させている。来訪時には管理者・ケアマネージャーが対応し、不在時は意見・要望を管理者に伝え、管理者が家族に連絡している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議では、常に何でも話しが出来る様にしている。	法人代表も参加をして職員会が2ヶ月に1回開かれ、職員から積極的な意見が出されている。職員ヒアリングで「話しやすく意見も言いやすい」と良好な体制がうかがえた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員個々の日々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が抱えている働く為の環境作りを良く把握し援助して、向上心を持って働けるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修へは順次参加出来る様にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡協議会に加盟し同業者と交流する機会を持ち、勉強会を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面談時、利用者・家族からの聞き取りをしていますが、入所後の声かけを特に大切にしてケアに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを利用される前に面談し、利用者の心身の状態や人柄等を伺うと共に、家族からの不安や要望も伺っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族からの要望・不安等を伺い、管理者・職員で情報を共有し日々の支援をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段から何でもない会話を大切にし、時には利用者が職員の体調や心を気づかって下さる事もある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、3ヶ月に一度のお知らせ(手紙)で、利用者の施設での生活をお知らせしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られる家族や友人には来て頂けただけで安心される事を伝え、何度でも来て頂ける様お願いしている。	コーチをしていた利用者に生徒がきたり、知人・親戚等の来訪に、馴染みの関係が途切れない様にお茶出しをして支援をしている。104歳の繕い物が好きな利用者は、利用者のズボンのほつれ直し等をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室にはテレビを置かず、日中はフロアで皆さんと一緒に楽しく過ごせる様にしている。共に過ごす時間があれば、利用者同士の関係も出来てくる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時までの相談はしているが、その後の連絡はしていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	いつも利用者の気持ちやその変化に気づける様会話を大切にしている。	日々の関わりの中で、ゆったりした気持ちで利用者の言葉・仕草・表情の様子を観察し、利用者の意向を汲み取るように努めている。耳が遠い利用者にはなるべく筆談で対応している。	利用者の輝いていた時代を思い出させるインパクト(当時のアルバム・ポスター等)を積極的に使用し、想いを引き出す誘い水になることを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供書を作成し職員が共有できるようにしている。また普段の会話の中で特に昔の話を大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のケアの中から生活リズムがわかってくれば、それを崩さない様に食事、排泄、入床時間など気をつけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員が気づいた事は常にすぐ話し合いの場を作り、介護計画の見直しをしている。また定期的にカンファレンスを行い、モニタリングもしている。	状態に変化がなければ、約4ヶ月ごとにサービス担当者会議・モニタリングをしている。前回評価での気づきを受け、ADL中心であった介護計画の見直しを図っている。	「個別ケア」を推進し、思いや意向に添った、その人らしさの感じる介護計画書の作成を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の職員間での申し送り、生活記録での情報を共有し、カンファレンスを行い介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族の状況に応じて、病院受診の付き添いなど対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に加入し地域の行事に参加している。地域のボランティアの方に定期的に訪問して頂き、利用者と共に楽しい時間が過ごせる様支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設でのかかりつけ医には、1ヶ月に一度往診をお願いしている。今まで通院されていた病院で継続的に医療を受けられる方は、できるだけ家族の方に病院受診をお願いしている。	月1回、協力医の往診がある。従来のかかりつけ医の受診は家族対応であるが、受診時にはホーム看護師による情報提供を行い、家族から情報を把握してサービスに活かしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	生活記録や申し送りノートへの記載による伝達や必要時電話にて随時看護師へ連絡・相談が可能であり、その都度状況に合わせ対応ができる様にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会に伺い、必要時洗濯物や不足物品の手配など、家族に代わり協力している。個人情報保護の為、入院中の利用者の状態は職員には教えてもらえないので家族より情報を頂き把握している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設に入所した時に、これからどのように過ごしたいか、終末期をどの様に迎えたいか利用者・家族に確認している。利用者・家族の意志を明確にする為、急変時における同意書への記入をお願いしている。	本人・家族の意向があり、医療的ケアがない場合には終末期支援を行なっている。「ホームで最後を迎えたい」と話していた利用者が限界ぎりぎりまでホームで過ごしたが、医療的ケアが必要になり入院し、亡くなった後に家族から感謝の手紙が寄せられた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に訓練は行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者を選出し、非常食など期限が切れない様管理している。年に2回避難訓練を行っている。地域の消防団の方にも一緒に参加してもらう事もある。	防災訓練を年2回開催している。地域の消防団の参加の夜間訓練で「照明の少なさ」の指摘を受け、照明を増やしたこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	更衣、トイレ誘導など一人ひとりに合わせた声かけをしている。	利用者に対して人生の先輩として尊敬の念を忘れず、丁寧な言葉かけをする事を心がけている。入浴・トイレ介助時は、羞恥心への配慮を心がけ、さりげない声かけを行なっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出に行く回転寿司では、好きなものを食べてもらう様にしている。2ヶ月に一度の移動美容室訪問では、髪型など希望が伝わる様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・入浴は職員のシフト上時間が決められていますが、その中でも利用者の希望は大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一度移動美容室の訪問を楽しみにしている。季節にあった服装をしてもらう様支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は業者からの取り寄せの為に一緒に調理はしませんが、朝食のみ施設で作っているので、野菜の皮むき、食器拭きなどできる事はお願している。1ヶ月に一度手作りおやつ、2ヶ月に一度、外出に出かけている。	献立と食材は業者に委託している。利用者の力量と希望に応じて、米とき・おしぼり巻き・下膳・食器拭き・棚への整理等に参加している。職員も同じテーブルで同じものを食べ、家庭的な雰囲気を大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お茶やコーヒーなど水分補給の時間を定期的に確保している。お茶をなかなか摂取できない方は家族と相談し、好みのジュースなど持ってきて頂いている。毎食後、食事摂取量のチェックをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけをし口腔ケアをしてもらっている。困難な方には介助・見守りをしている。歯ブラシが使用できない方には口腔ケアウエットティッシュを使用しふき取りをしている。また、義歯の方は就寝前に必ず取り外し、洗浄している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックをつけ利用者の排泄パターンを把握し、できる限りトイレで排泄できる様、声かけ、介助を行っている。	トイレでの排泄を基本とし、排泄チェック表を使用して、利用者一人ひとりに合わせた時間で、さりげない誘導を行っている。寝たきりの利用者も定期的にトイレに座ることにより、排泄の習慣ができています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、朝食にヤクルトを出している。ラジオ体操の参加を促し、職員と一緒に身体を動かしている。下剤の調整はその都度状態に合わせて、看護師、職員で話し合っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴はシフトの関係で時間が決まっていますが利用者の体調や要望に合わせて、入浴日の変更を行っている。	2日に1回の入浴を基本としている。入浴を拒否する利用者には無理強いせず、職員を替える、言葉の掛け方を変える等、柔軟に対応しており、現在拒否する利用者はいない。季節感を楽しむ入浴にも工夫がある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調などをみて日中30分ほど休息がとれる様支援している。居室の温度調節、加湿に気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関しては定期診察医師の指示を受けている。職員は服用し忘れがないかの確認と利用者の体調の変化の把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の出来る事、出来ない事を把握し、お手伝いなど役割を持った生活をしてもらっている。また、好みのおやつを食べてもらっている方もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	2ヶ月に一度外食する機会を作っている。誕生日月には本人の希望にそって外出している。あじさい祭りなど地域の行事にも毎年参加している。	高齢化によって外出は難しくなりつつあり、日当たりのよい玄関での外気浴や近隣の散歩に出掛けている。2ヶ月ごとの外食や誕生日外出は楽しみのひとつである。近隣の桜見や、介護タクシーを利用して全員が季節の花見を実践している。	アンケートでは厳しい評価を受けている項目である。家族の望む外出支援と家族の認識にズレが感じられる。利用者の日常(外出)をより理解しやすく伝える工夫を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族との話し合いで、お金を持ってみえる方もいる。家族と一緒に買い物へ出かける方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の了解を得て、希望があればいつでも家族へ電話をかける事ができる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除はもちろんですが、利用者の各居室の整理など利用者と話しながらいっている。また、室温調整や加湿調整を行い快適な空間が提供できる様努めている。ひな人形、クリスマスツリーなどを飾り季節を感じられる様努めている。	近隣は住宅街であり、騒音や振動はない。利用者が集まるリビングは、食事場所と日常生活の場所の区別がある。床は利用者が座ることができるソフトな床材が使用され、床に座っても心地よい環境作りをしている。アンケートでも清潔な環境は好評である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアではソファーと一緒に座ったり、テーブルのあるイスで新聞を読まれたりと、自由に過ごしてもらえる様になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際、新しく買った物ばかりでなく、利用者が長年愛用していた物を持ってきてもらうなど使い慣れた物をお願いしている。	居室にはベッドと筆筒が備え付けてあり、自宅から使い慣れた好みの家具が持ち込まれている。家族写真、思い出のアルバム等を揃えた居室、飾らない居室、一人ひとりの個性溢れる居室は生活歴そのものである。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全てバリアフリーとなっており、トイレ、洗面所などへも自由に動く事が出来る。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2373900345		
法人名	有限会社ジェイ・スパック		
事業所名	グループホーム「白寿の里」 2F		
所在地	愛知県稲沢市正明寺一丁目2-15		
自己評価作成日	平成26年12月29日	評価結果市町村受理日	平成27年 6月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/23/index.php?action=kouhvu_detail_2014_022_kani=true&JjgvsvoCd=2373900345-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成27年 3月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設内の行事だけでなく、町内会や町内の行事(はだか祭り、稲沢中学校職場体験、敬老会など)に積極的に参加している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	定期的に行う職員会議、カンファレンスを通し、管理者、職員間の話し合いで共有が出来ていると思う。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年行われているはだか祭り、地区での敬老式等の出席を楽しみに思い交流がうまく出来ていると思う。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年中学生の職場体験実習を受け入れ、知って頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の開催で意見・情報の交換を行いサービスの向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に稲沢市役所高齢介護課の担当の方に毎回出席をお願いしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者も出席する職員会議で何度も繰り返し学びながら身体拘束をしないケアをしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議、カンファレンスなどの話し合いで見過ごしてしまわない様注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する勉強会は行えていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には管理者が重要事項説明書を読みながら説明し、理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族からの意見や苦情、要望は常に聞かせて頂く様心がけている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議では、常に何でも話しが出来る様にしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員個々の日々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が抱えている働く為の環境作りを良く把握し援助して、向上心を持って働けるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修へは順次参加出来る様にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡協議会に加盟し同業者と交流する機会を持ち、勉強会を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面談時、利用者・家族からの聞き取りをしていますが、入所後の声かけを特に大切にしてケアに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを利用される前に面談し、利用者の心身の状態や人柄等を伺うと共に、家族からの不安や要望も伺っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族からの要望・不安等を伺い、管理者・職員で情報を共有し日々の支援をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段から何でもない会話を大切にし、時には利用者が職員の体調や心を気づかって下さる事もある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、3ヶ月に一度のお知らせ(手紙)で、利用者の施設での生活をお知らせしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られる家族や友人には来て頂くだけで安心される事を伝え、何度でも来て頂ける様お願いしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室にはテレビを置かず、日中はフロアで皆さんと一緒に楽しく過ごせる様にしている。共に過ごす時間があれば、利用者同士の関係も出来てくる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時までの相談はしているが、その後の連絡はしていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	いつも利用者の気持ちやその変化に気づける様会話を大切にしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供書を作成し職員が共有できる様にしている。また普段の会話の中で特に昔の話を大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のケアの中から生活リズムがわかってくれば、それを崩さない様に食事、排泄、入床時間など気をつけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員が気づいた事は常にすぐ話し合いの場を作り、介護計画の見直しをしている。また定期的にカンファレンスを行い、モニタリングもしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の職員間での申し送り、生活記録での情報を共有し、カンファレンスを行い介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族の状況に応じて、病院受診の付き添いなど対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に加入し地域の行事に参加している。地域のボランティアの方に定期的に訪問して頂き、利用者と共に楽しい時間が過ごせる様支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設でのかかりつけ医には、1ヶ月に一度往診をお願いしている。今まで通院されていた病院で継続的に医療を受けられる方は、できるだけ家族の方に病院受診をお願いしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	生活記録や申し送りノートへの記載による伝達や必要時電話にて随時看護師へ連絡・相談が可能であり、その都度状況に合わせ対応ができる様にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会に伺い、必要時洗濯物や不足物品の手配など、家族に代わり協力している。個人情報保護の為、入院中の利用者の状態は職員には教えてもらえないので家族より情報を頂き把握している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設に入所した時に、これからどのように過ごしたいか、終末期をどの様に迎えたいか利用者・家族に確認している。利用者・家族の意志を明確にする為、急変時における同意書への記入をお願いしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に訓練は行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者を選出し、非常食など期限が切れない様管理している。年に2回避難訓練を行っている。地域の消防団の方にも一緒に参加してもらおう事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	更衣、トイレ誘導など一人ひとりに合わせた声かけをしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外食に行く回転寿司では、好きなものを食べてもらう様にしている。2ヶ月に一度の移動美容室訪問では、髪型など希望が伝わる様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・入浴は職員のシフト上時間が決められていますが、その中でも利用者の希望は大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一度移動美容室の訪問を楽しみにしている。季節にあった服装をしてもらう様支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は業者からの取り寄せの為に一緒に調理はしませんが、朝食のみ施設で作っているため、野菜の皮むき、食器拭きなどできる事はお願いしている。1ヶ月に一度手作りおやつ、2ヶ月に一度、外食に出かけている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お茶やコーヒーなど水分補給の時間を定期的に確保している。お茶をなかなか摂取できない方は家族と相談し、好みのジュースなど持ってきて頂いている。毎食後、食事摂取量のチェックをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけをし口腔ケアをしてもらっている。困難な方には介助・見守りをしている。歯ブラシが使用できない方には口腔ケアウエッティーを使用しふき取りをしている。また、義歯の方は就寝前に必ず取り外し、洗浄している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックをつけ利用者の排泄パターンを把握し、できる限りトイレで排泄できる様、声かけ、介助を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、朝食にヨーグルトを出している。ラジオ体操の参加を促し、職員と一緒に身体を動かしている。下剤の調整はその都度状態に合わせて、看護師、職員で話し合っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴はシフトの関係で時間が決まっていますが利用者の体調や要望に合わせて、入浴日の変更を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調などをみて日中30分ほど休息がとれる様支援している。居室の温度調節、加湿に気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関しては定期診察医師の指示を受けている。職員は服用し忘れないかの確認と利用者の体調の変化の把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の出来る事、出来ない事を把握し、お手伝いなど役割を持った生活をしてもらっている。また、好みのおやつを食べてもらっている方もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	2ヶ月に一度外食する機会を作っている。誕生日には本人の希望にそって外出している。あじさい祭りなど地域の行事にも毎年参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族との話し合いで、お金を持ってみえる方もいる。家族と一緒に買い物へ出かける方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の了解を得て、希望があればいつでも家族へ電話をかける事ができる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除はもちろんですが、利用者の各居室の整理など利用者と話しながら行っている。また、室温調整や加湿調整を行い快適な空間が提供できる様努めている。ひな人形、クリスマスツリーなどを飾り季節を感じられる様努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアではソファーと一緒に座ったり、テーブルのあるイスで新聞を読まれたりと、自由に過ごしてもらえる様になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際、新しく買った物ばかりでなく、利用者が長年愛用していた物を持ってきてもらうなど使い慣れた物をお願いしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全てバリアフリーとなっており、トイレ、洗面所などへも自由に動く事が出来る。		